

平成26年度

第1回 対策地域内廃棄物処理業務(減容化処理)に係るアドバイザー委員会  
議事要旨

日時：平成26年4月16日(水) 13:00～15:00

場所：環境省東北地方環境事務所 福島環境再生事務所 北庁舎大会議室

出席委員(敬称略)

東北大学大学院 教授 環境科学研究科 研究科長

吉岡敏明

国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長

大迫政浩

全国都市清掃会議 技術部長

荒井喜久雄

オブザーバー

福島県 相双地方振興局 県民環境部 副部長

清野弘

議事要旨

I 本日の検討対象施設

1. 富岡町 500ト/日 仮設破碎選別・仮設焼却炉
2. 川内村 7ト/日 仮設焼却炉

II 検討内容

1. 富岡町仮設破碎選別・仮設焼却炉

冒頭、MHIEC・鹿島・MHI 共同企業体(以降JVと記載)より、業務内容について説明があった。

注：MHIEC：三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社 鹿島：鹿島建設株式会社

MHI：三菱重工業株式会社

- (1) 処理対象物の組成

委員より、処理物の組成の決め方について質問があった。JVより、災害ごみ、片付けごみは宮城県の被災地の廃棄物をベースに、除染物は一般の草木を想定していると説明があった。委員からは他の被災地で災害ごみに漁網が含まれ、灰中の鉛が増えることがあったので、焼却方法として量で制限することが良いとの助言があった。

また、委員より、全ての処理物がフレコンに入って搬入されるので、フレコン由来の塩素成分も多くなる可能性について助言があった。JVから、塩素量に応じて消石灰を吹き込み、規制値を十分に下回る事が出来る旨説明があった。

## (2) セシウムの挙動

委員より、セシウムの挙動が分かる工夫について質問があった。

JVから、本プラントでは、入口(処理物)と出口(灰)での線量等を計測、記録し、また、煙突では排ガスモニターを設け、ここからの排出がないことを明示する旨説明があった。委員からは、排ガスモニターはセシウムの量を直接計測しているわけではないので、放射線量の変化の追従性については、試運転時に十分に確認するよう助言があった。

## (3) ガス冷却について

委員より、水噴射方式の場合にガス中の水分の影響でバグでの除去効率に影響を与えることがないかという質問があった。JVからは、既存のストーカ式小型炉で、水噴霧によるガス冷却式炉に付帯するバグフィルター方式の集じん装置で、ばいじんの除去効率は99%以上の性能であり、水分による影響はない旨説明があった。

## (4) その他

委員より、地元とのコミュニケーションを十分にとる必要があるので、工事情報等は適宜流してほしい旨、また、地元企業の採用について、地元心情から配慮するように助言があった。

## 2. 川内村仮設焼却炉

冒頭、日立造船株式会社(以降日造と記載)より、業務内容について説明があった。

### (1) 施設建設計画

#### 1) 破砕物ヤード

委員より、破砕物ヤードの貯留量について、処理するごみ質を均一にすることが重要であり、均一にかくはんするための貯留量について十分検討

するよう助言があった。

## 2) 焼却炉のテント覆い

委員より、焼却炉はテントで覆わないのかとの質問があった。日造より、焼却炉の点検口などはパッキン付きでボルト止めにするなど、ごみ処理施設構造指針に従い排ガスが漏れない構造となっているため、テントで覆わなくとも問題ないと説明があった。

## 3) 排ガス処理

委員より、2段式バグフィルタに対する消石灰の吹き込み方法について質問があった。日造より、2段目のバグフィルタの機能を常時確実に発揮させるため、2段目のバグフィルタにも少量の消石灰を吹き込むとの説明があった。

## (2) 施設運営計画に関する質疑

### 1) ごみの均一化の重要性

委員より、焼却炉の安定運転の確保は、焼却炉に投入するごみ質を均一化することなどの経験も重要であることから、運転員のうち班長クラスは焼却炉の運転経験者を配置することが有効であるとの助言があった。

### 2) 10万Bq/kg超えのばいじんの処理について

委員より、10万Bq/kgを超えるばいじんはセメント固型化しないということであるが、どのように濃度を管理するのか質問があった。日造より、実測して管理する予定であるが、具体的な方法は検討中との回答があった。委員より、検討結果を次回委員会の席上説明するように要請があった。

### 3) 事故防止策

委員より、事故発生防止のための対策について質問があった。日造より鮫川村事故での教訓を活かし、マニュアル化や運転員への教育の徹底並びに運転員の習熟度の確認を行うとの説明があった。

以上